

第 29 号

発行元 〒900-8571
 沖縄県那覇市泉崎1-2-2
 沖縄県公民館連絡協議会事務局
 (沖縄県教育庁生涯学習振興課内)
 TEL:098-866-2746

沖公連だより

【目次】

- | | | | |
|--------------------------------|------|-------------------|------|
| ①沖縄県公民館連絡協議会 会長あいさつ | P1 | ④地域の取組等について | P6.7 |
| ②第49回沖縄県公民館研究大会宮古大会 開催報告 | P2.3 | ⑤研究大会案内等 | P8 |
| ③九州地区公民館研究大会佐賀大会について | P4.5 | | |

沖縄県公民館連絡協議会
 会長あいさつ



沖縄県公民館連絡協議会会長の田端二正です。皆様には、日頃より公民館活動の活性化に向けて、お世話になり感謝申し上げます。

令和元年度の第49回沖縄県公民館研究大会宮古大会が、昨年11月8日に宮古島市未来創造センターで「地域の特性・人材・文化を生かす公民館活動を目指して」の大会テーマで盛

会に開催されました。優良公民館表彰を受けられました浦西自治公民館、また10名の優良職員表彰の皆様、そして2名の功労者表彰の皆様、誠にめでたくございます。これまでの功績に敬意を表します。また、大会も沖縄県公民館連絡協議会会員の皆様の総力を挙げての取り組みで、大変有意義な大会となりました。皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

分科会においては、第二分科会では、本部町立中央公民館の金城大貴様、みやこ少年少女合唱団の宮国貴子様、

第二分科会では、南風原町神里自治公民館の赤嶺男様、沖縄市立中央公民館の野原多恵子様、沖縄市園田自治公民館の末古裕子様、第三分科会では石垣市名蔵自治公民館の土地正人様、浦添市勢理客自治公民館の具志堅全輝様、それぞれに実践発表していただき、各会場とも活発な討議が行われました。

発表者、運営者等役員に当たられました皆様、そして何より、土地誠賢様をはじめとする宮古地区公民館連絡協議会、また、宮古島市教育委員会、多良間村教育委員会、沖縄県教育庁宮古教育事務所の皆様には本当にお世話になりました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

今大会の成果が、沖縄県公民館活動のさらなる活性化につながっていくものと確信しています。

また、集中豪雨により延期となっていた第41回全国公民館研究集会・第70回九州地区公民館研究大会佐賀大会は、1月14日に佐賀市で全体会、シンポジウムのみの開催となりました。次年度は、8月末に熊本市での開催予定で、多くの会員の方々の参加をお願いいたします。

県内においては、昨年八月に、令和元年度(第30回)中部地区公民館研

究大会読谷大会にお招きいただきました。恩納村富着自治公民館の仲村兼富様、北谷町宇地原区公民館の仲宗根仁志様の実践発表があり、共通して感銘を受けたのは、公民館が地域住民の生涯学習、福祉、安全安心の確保、地域行事の継承発展のために大きな力となっていることであります。そのような活動を推進されている公民館の方々からは、地域振興に懸ける思いに深く感銘を受けました。まさに公民館は地域の教育力の向上、人づくり、地域づくりの拠点、コミュニティの要であります。

地域にとって、公民館の果たす役割の大きさ、存在の大切さを強く感じることができました。

沖縄県内の公民館において、集い、活動することを通して、地域の課題解決、文化継承、地域づくり、そして地域住民の交流の深まり等につながり、公民館が社会教育、生涯学習の拠点としてしっかりと機能できますよう、今後とも皆様とともに力を合わせて参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和2年3月

沖縄県公民館連絡協議会

会長 田端 二正

第49回沖縄県公民館研究 大会宮古大会 開催報告

令和元年11月8日(金)に、「地域
の特性・人材・文化を生かす公民館
活動を目指して」の大会テーマの
もと、第49回沖縄県公民館研究大会
宮古大会が開催
されました。



宮古地区での
大会開催は6
年ぶり、会場
となった宮古島
市未来創造セン
ターは、令和元
年8月に完成した新しい施設で、図
書館と公民館の機能を併せ持つ複
合施設です。



開会行事では、優良公民館や優
良職員・功
労者の表彰
が行われ、
講演・アト
ラクシオン
では、宮古
の公民館を
日頃から活

全体会(開会行事)



用している方々に講演・出演をして
頂きました。

各分科会では、日頃から地域活
動の拠点として
学習情報の提
供や、地域文化
の保存継承に努
めている公民館
活動の取組が、
各会場にて発
表されました。

大会は宮古地区公連の土地誠賢
会長による開会のあいさつで始ま
り、公民館の歌
の斉唱、田端一
正沖公連会長
による主催者
あいさつと続き
ました。
その後、平敷
昭人県教育長
(名代)、半嶺満
教育指導統括
監)からの祝辞



講演・アトラクション



開会行事終了
後、「人と人をつ
なぐ笑いヨガ」笑
いで健康と幸せを
〜と題しまし
て、ラフターヨガ
ティーチャー平良

慶子氏による講演が行われました。
平良氏は、宮古島で長く看護師・
助産師として活躍し、現在はボラン
ティアとして健康増進員や母子保
健推進員を務める中、「あばらぎラ
フターヨガサークル」を結成し、活動
しています。

会場内の参加者
を笑いの渦に巻き込
み、動きを入れた体
験を通して、笑いが
健康づくりにつな
がる内容でした。



講演終了後は、宮古で活動してい
る団体「アキラ・サンバソン」(Ami
Sambathon)によるサンバ演奏が披
露されました。
リズムカルなドラム音楽を奏でな

分科会

がら颯爽と舞台
に登場した二人の
女性ダンサーによ
る踊りと音楽で
会場を盛り上げ
て頂きました。



昼食を挟み、午後は三つの会場
に分かれて分科会が行われまし
た。

「学びの拠点」「学校・地域との
連携」「地域づくり」の三つのテーマ
のもと、各地区の代表から日頃、地
域で取り組まれている実践の発表
を行って頂きました。

また、コーディネーターの進行も
良く、参加者アンケートでは「有
意義な分科会だった」等の感想も
ありました。

本大会のためにご尽力頂きまし
た皆さま、本当にありがとうございます
でした。

【第1分科会】

実践発表①:金城 大貴(本部町)
「公民館の講座・事業等学びの活
動について」



実践発表②:宮国 貴子(宮古島市)
「人材育成を目指した学びにつ
いて」〜合唱団活動を通して〜



コーディネーター:下地 豊
(宮古教育事務所 社会教育主事)



【第2分科会】

実践発表①:赤嶺 一男(南風原町)
「地域のつながりを支える公民館 活動を目指して」
〜持続可能な地域活動を考える〜



実践発表②:野原 多恵子(沖縄市)
木吉 裕子(沖縄市)
「公民館における家庭教育支援の取組について」



コーディネーター:島尻 郁子
(NPO法人あらた 理事長)



【第3分科会】

実践発表①:上地 正人(石垣市)
「自治公民館を中心とした地域づ
くりの実践」〜名蔵土曜郷トラ市〜



実践発表②:具志堅 全輝(浦添市)
「伝統文化の継承と地域づくりの
実践」〜歴史的文化的継承と心の
ふるさと作り〜



コーディネーター:南 信之介
(那覇市繁多川公民館館長)



優良自治公民館表彰 優良職員及び功労者表彰

優良自治公民館表彰、優良職員
及び功労者表彰が全体会にて行わ
れました。本年度は優良公民館1
館、優良職員10名、功労者2名の
方々が受賞されました。受賞され
た皆さま、おめでとうございます。

【優良自治公民館表彰】
浦添市浦西自治公民館



と、下地敏彦宮古島市長(名代)・
宮國博市教育長)から歓迎のあいさ
つを賜りました。
また、池城三千雄多良間村教育
長のご臨席も賜りました。
令和元年度優良職員等の表彰式
も開会行事にて行われ、受賞者を
代表し、浦添市浦西自治公民館の
宜野座富夫館長より、喜びとお礼の
あいさつを賜りました。

【優良職員表彰】

我喜屋 盛永(センター自治公民館)
阿波根 直則(都屋自治公民館)
名嘉真 朝榮(長田自治公民館)
比嘉 昭徳(瀬名波自治公民館)
高宮 実与(牧原自治公民館)
石川 仁孝(前田自治公民館)
川畑 政和(緑ヶ丘自治公民館)
宜野座 富夫(浦西自治公民館)
知花 聡(陽進橋自治公民館)
新城 洋子(県営沢崎高層住宅自
治公民館)

【功労者表彰】
前花 雄二(宮良自治公民館建設
期成会長)
仲野 英則(川平自治公民館公民
館財政・運営問題検討
委員長)



九州地区公民館研究大会 佐賀大会について

第41回全国公民館研究集会と第49回九州ブロック社会教育研究大会、そして第70回九州地区公民館研究大会佐賀大会の三つの大会の合同開催となる大会が、「社会教育や公民館の隘路（あいろ）を拓く」がばいつながろう！人と人」をテーマに、令和2年1月14日（火）に佐賀県佐賀市にて開催されました。この大会は、当初、令和元年8月29日（木）、30日（金）の2日間にかけて開催される予定でしたが、九州北部を襲った大雨により、佐賀県は大きな被害を被り、大会は中止が決定されました。

しかし、大会に向けて多くの方々が準備を行ってきたことを考慮し、佐賀県大会事務局は各県公連の会長や、九公連理事の意向を伺い、開催に向けて再度、準備を進めました。大会は、開会行事とシンポジウム、閉会行事の一日開催として



実施され、無事終了いたしました。大会開催に向けて、ご尽力された皆さま、本当にお疲れさまでした。左記は、佐賀大会にて発表予定であった南風原町喜屋武自治公民館の田本館長の発表原稿です。佐賀大会では、分科会の発表が叶わなかったため、ここで掲載させて頂きます。

伝統芸能と文化の保存を 重視した公民館活動

南風原町 喜屋武自治公民館
館長 田本 勉

1 南風原町喜屋武の紹介

(1) 南風原町の位置
南風原町は沖縄本島南部那覇市の東に位置し、東海岸側の与那原町に挟まれる沖縄県で唯一海に面していない自治体である。南風原町の人口は約三万九千人、那覇市のベッドタウンとして山間都市化が進んでいる。

(2) 喜屋武の祖先

喜屋武の発祥は、南風原町の南に位置する黄金森の側面に井戸を作り発展した集落と考えられる。今でも古くから伝わっている拝所を毎年旧暦に合わせて御願（祖先を敬う

願事）をする。

(3) 戦争の爪痕の残る黄金森
黄金森には先の大戦に陸軍病院のために壕が掘られた。悲惨な戦争の爪痕として文化センターに当時を再現している。

(4) 人口、世帯

喜屋武自治会の町集計による人口は千三百人（男性659人、女性641人）、501世帯、自治会加入世帯（会費徴収）277世帯、加入率は55%である。

(5) 主な産業

喜屋武の産業は古くから伝わる伝統的な庶民の着物である「琉球かすり」の産地として、今に伝承されている。主に喜屋武・本部・照屋地区の3地区はその名産地として機織りが盛んである。

2 活動内容

(1) 公民館の活動

「綱引きは活動の源」
ア 門中（ムンチュ）

ムンチュとは、本家を起源として家族の分家や子孫からなる。本家に集まり五穀豊穡を祝い、冠婚葬祭など行事にはお供えする儀礼が伝えられる。喜屋武もムンチュでまとまり、今でも屋号で家元を知ることが出来る。これは子供達にも教える継承されている。

いまでも家の表札に屋号を書き入れている所もあり、ムンチュを知ることが出来る。

イ 綱引きは絆を深める行事

綱引きは、東方（あがり）と西方（いり）で門中に分かれて引き合う字の二大イベントで、毎年旧暦6月25日に2回、26日に1回引いて、2日間行われる。特徴として綱の大きさや形も引き方も違う。

東（あがり）の陣地は狭い道の緩やかな登り坂、綱は約50メートル、西の綱より6〜8メートルは長く、全員が綱を肩に乗せて持ち上げる。西（いり）の陣地は太く短く約45メートルで枝綱が10〜13本あり、その枝綱を左右別れて上下させながら引く。両方とも鐘の音とかけ声で引く力を結集させ調子を合わせて結束力が高まる。

県内でも類のない綱引きであることから区民が結集でき、門中の絆を深め、勝ち負けにこだわりながらもお互いの健闘を讃え、終わった後の親睦が区民同士の絆をより強くする。



戦中の混乱期を除き二度も絶えることなく行われ、ワラの回収、綱を編む作業（綱のーやー）も区民総出で本番の2週間前の日曜日に行う。

綱作りは区民総出の作業で朝9時から夜8時頃終わる。女性会は昼食や休憩時の食事のまかないを担当する。女性会員は喜屋武以外から嫁いで住む人が多くなったが、綱作りを通してお互いを知る機会となる。

中学生男子はこの頃から綱引きを通して「勇気」や「肝試し」の場になる。雄綱（東と北綱（西）とも勝つことを誇りとしている、お互い優位に引くための小競り合いの中に入れることで、人前になった実感が湧いてくる。女性会と青年会の役割は様々なイベントや行事に関わりその果たす役割は大きく地域にとって重要な団体である。

(2) 喜屋武の活動（伝統芸能）

ア 十五夜あしび

旧暦8月十五夜、その週の土曜日にこれも綱引き同様に伝統行事として「十五夜あしび」がある。

南風原町から無形民俗文化財に指定される「獅子舞」「舞方棒」と「長者の大王」がメインとして演じられる。

本土の伝統芸能継承の特徴として難しい技法や楽器など、長い年月をかけて稽古を積み、実績を必要

とするのに対して、沖縄の伝統芸能は特に難しい演技が少なく、幼い頃から身近に接した事により、覚えも早いと思われる。

毎年役が決まって約2カ月前から稽古を始める。また役を交代することと演技や伝統芸能の意味を知ることが出来る。

イ 腰ユックイ（腰休み）

6月中旬には、農作業の稲刈り取り終了に合わせて腰休みの「腰ユックイ」が行われる。

今では稲からサトウキビの収穫に代わり、農業従事者も減り会社勤めが大半を占め、今でも折詰を準備し食事を提供、タレントや区民の舞踊家を呼んで余興を楽しむ。

ウ 新年宴会、敬老会

新年宴会は1月新年を祝うための行事で年初め第2週目に行う。新年向けの舞踊や余興で盛り上がる。敬老会は10月頃行われる。喜屋武では老人クラブは満63歳からとなっており63歳から招待される。

(3) まとめ

ア 年齢による係りの設定
① 37〜38歳（行事係（役員含む）） 特に綱引きの準備から片付けなどを担当させ、係りの重要性から役員も担っている

② 9歳女子児童（小学三年生）
十五夜あしびの踊りに全員出演する

③ 小学二年生の歓迎

6月腰ユックイで全員区民の前で自己紹介し、覚えてたの屋号も紹介する。

イ 多くの区民に絆を受け継がせる各種団体の年齢構成もその活動を皆で分担することで区民が一人でも多く活動に参加できるように工夫し行事に関われる仕組み。

ウ 主な活動団体

- ① 青年会（男女16〜25歳）、② 女性会（26〜62歳）、③ 老人クラブ（男女63歳以上）、④ 伝統芸能保存会、⑤ ふるさと創生区民の会、⑥ PTA、⑦ 体育協会、⑧ 高齢者（ミニデイ）、⑨ OBC会（男性25〜39歳）、⑩ 中年会（男性40〜49歳）、⑪ 実年会（男子50〜62歳）



⑫ 課題点および今後の取り組み
(1) 区民の高齢化と職業多様化

高齢化率22%と、南風原町の平均18%を大きく上回る。

また、多様な職業選択のできる那覇市に近く、昔ながらの世代間との交流に魅力を感じない傾向にある。今後さらに高齢化が進むことで行事等の参加者は減少していくと思われる。

(2) 核家族化と送迎等による時間の拘束

結婚した20代〜30代は、地域外に住むことで情報が伝えられない。子供のPTA行事、部活や塾などへの車の送り迎えが増え、拘束されて行事参加に影響している。

(3) アパート住民と字行事活動の意見相違

狭い地域にアパートの建設が増えた。綱作りや綱引きなど、深夜まで及ぶ交流会によって、一部住民の中から生活の邪魔と考える人もいる。

(4) 字運営アパートの空き室対策

字が運営する共同住宅が築25年となり、新築アパートに引っ越しする住民が増え空き室が出ている。字運営は家賃収入に頼っているため対策が急務。

(5) 区民加入促進と役員のなり手不足
若い世代等新住民への加入を促進し地域を支える人材を確保すること。

地域の取組等について

25m泳げるかな？

那覇市立上間小学校プールにて、沖縄大学福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻学生との地域連携事業「泳げるようになろうよ！水泳教室」が令和元年6月30日（日）に行われました。

小学校の水泳授業では、児童が泳げるようになるまで十分な時間が確保できない小学校が多く、また、大学生からの提案がきっかけとなり、一人でも多くの地域児童に泳ぎの楽しさを知ってもらい、水泳を通して異世代間交流を図る目的で、今回の連携事業を企画しました。

沖縄大学生との連携事業は今年で3年目に入り、昨年から参加している大学生と児童が顔見知りになっていて、地域の楽しみなイベントになりつつあるように思いました。



新星プログラマー誕生

令和元年6月29日（土）那覇市中央公民館ホールにて、親子ふれあい教室「子どもわくわくプログラミング」が開催されました。

文部科学省が薦める小学校向けプログラミング研修教材「Scratch（スクラッチ）」を使い、ゲーム感覚で出来るプログラミング体験に児童も保護者も興味深々でした。

図形（三角形）を描く課題では頂点の角度を求める場面があり、児童と保護者が一緒に計算を行い、三角形を描き上げたり、また児童は猫がネズミを追うプログラミングが出来上がると自慢げに保護者に見せたりと、親子で初めてのプログラミングを楽しむ姿がみられました。

児童達は、休憩時間でも手を止めることもせず熱中していたので、保護者アンケートには、「子どもの集中力に驚かされ、上達が早そう」と未知なる可能性にワクワクしながら、どの親子も満足できる学びとなりました。



中部地区公民館研究大会 読谷大会 開催報告

令和元年8月26日（月）読谷村文化センター、鳳ホールにて令和元年度中部地区公民館研究大会読谷大会が開催されました。

開会式では、中部地区公連の奥儀会長からの主催者あいさつに続き、沖公連の山端会長、読谷村の石嶺村長が来賓祝辞を述べられました。

事例発表では、恩納村富着自治公民館の仲村自治会長が、「地域がふれあい、協力しあう自治公民館」との題で発表を行い、北谷町宇地原区公民館の仲宗根館長が、「地域課題に対応した公民館活動を通して」というテーマで発表を行いました。

研究討議では、那覇市若狭公民館の宮城潤館長が指導助言者となり、参加者からの意見も広く取り入れながら、活発な研究討議がなされました。

また基調講演には、南方詩人の平田大さんをお招きしました。



きし、演題「ひとづくりの種をまく地域でおこす！人と夢と未来」のテーマで自身の経験を踏まえた内容でした。終盤では、唄と音楽も披露し、会場内を熱気で包み込む講演でした。

研究大会終了後、会場を移しての懇親会が開催され、発表者・指導助言者・講演者・役員・スタッフが一堂に会し、交流を深め、次年度開催予定地の沖縄市の野原会長のあいさつで幕を閉じました。

交流職員紹介（八重瀬町） 八重瀬町中央公民館 岡本 侑大

交流職員として4月に高知県から派遣された八重瀬町中央公民館の岡本と申します。宮古大会では何もかもが初めてで、貴重な経験となりました。参加者、役員を始めとした沖縄県の皆様へ感謝申し上げます。

令和2年度には南部地区で研究大会が開催されます。活発な意見交換が出来るよう取り組んで参りますので、是非ご参加ください！



第72回優良公民館 文部科学大臣表彰 特別賞

受賞概要

那覇市繁多川公民館は、NPO法人一万人井戸端会議が公民館活動の企画・運営を行っている。活動の一つとして、戦後途絶えていた在米品種の大豆を復活させ、それを用いた伝統豆腐作りを行っている。豆腐づくりを通して、世代間交流を行うなどの地域活動が認められ、平成30年に農林水産省より消費・安全局賞を受賞している。また、エジプトに公民館を作る活動を平成27年より取り組んでいる。現地の方と連携し、活動の一環として行っているオンライン講座は、沖縄とエジプトをICITを用いて中継し、様々なテーマの講座を定期的に実施している。講座には、繁多川地区の中高生ボランティアスタッフが参加し、異国文化やそこに住む人々の考え、思いに触れることを通して学習の動機へとつながっている。本活動は、令和元年度文部科学省「日本型教育の海外展開推進事業（EDU-Port）」公認プロジェクトに採択され継続して取り組まれている。

これらの活動が認められ第72回優良公民館表彰を受けました。そのうえ、全国75館の優良公民館が受賞する中から、那覇市繁多川公民館が、特別賞を受賞しました。

2月14日に行われた表彰式の後、那覇市若狭公民館長、宮城潤氏の「これからの社会教育・公民館活動」社会教育法七十周年を迎えて」と題した講演がありました。



繁多川公民館 南信乃介館長(左)
若狭公民館 宮城潤館長

令和元年度第3回全国公民館 インターネット活用コンクール

最優秀賞 那覇市若狭公民館
(NPO法人サポートわかさ)
公民館の総合的なインターネット活用をさらに推進し、運営に広く役立つ活動を奨励するために、

全国公民館連合会主催でコンクールが開催されました。

応募総数32館の中から那覇市若狭公民館は、最優秀賞に選ばれました。ホームページコンクールを併せると5度目の受賞となります。

今回の講評は、多様な情報発信ツール（ホームページを軸に、ブログ、ツイッター、フェイスブック、メールマガジン、ユーチューブ、館報）を使い事業に活用していることが高く評価されました。

全国公民館セミナーに行ってきました。 那覇市中央公民館館長 照屋 満

1月29日（水）～31日（金）、国立オリンピック記念青少年センターに全国各地から集まった94人の公民館関係者と一緒に、とても楽しく有意義な3日間を過ごしました。

初日の事例研究は、高知県南国市の稲生（いなう）公民館と那覇市若狭公民館から、新たな発想やアイデアを積極的に取り入れ、地域団体や大学、企業等とうまく連携し、住民の「やりたい」をサポートしていることの発表がありました。

2日目は、インターネットを活用した情報発信について、アイムービーというアプリを使ってワークショップをしました。

3日目の集中講義では、少子高齢化、貧困の連鎖、格差社会といった様々な課題を抱える現代社会において、持続可能な社会を作るために公民館がやることは何か、いくつかの事例を交えた講師の話に多くのヒントをもらいました。

3日間を通して司会、月間公民館でおなじみの公民館芸人のバーゲンセールが担当し、終始和やかな雰囲気でした。終始和やかな雰囲気でした。

講義は充実していて、とても素晴らしい研修内容でしたが、もつとよかったのは、研修後の交流会や懇親会でした。全国の公民館に携わる皆さんと交流し、様々な公民館のカタチがあることを知り、いろんなことが公民館で出来ることに気が来ました。

「さあ、次はあなたが参加する番ですよ。」



令和2年度 第50回 沖縄県公民館研究大会 南部大会

大会テーマ 地域住民が主体となる持続可能な共生社会の構築に向けて

期 日 令和2年10月23日(金) 10:00～15:45

会 場 豊見城市立中央公民館「豊見城市 字平良467-1」
豊見城市社会教育福祉センター「豊見城市 字平良467-4」

参加対象 公立・自治公民館関係者、教育委員会関係者、社会教育関係団体関係者及び社会教育施設関係者、市町村長部局及びその他行政機関の関係者、市町村長部局及びその他行政機関の関係者、学校教育関係者、公民館で活動するNPO、各種サークル等関係者、生涯学習・公民館活動・地域づくりに興味・関心のある者

講演 (調整中)

分科会 第1分科会「学びの拠点としての公民館のあり方」
第2分科会「公民館と学校・家庭との連携のあり方」
第3分科会「地域づくりの拠点としての自治公民館のあり方」

参加費 2,000円(資料代等)

問い合わせ・ 申込先

沖縄県公民館連絡協議会事務局
〒900-8571 那覇市泉崎1-2-2 沖縄県教育庁生涯学習振興課内
Tel:098-866-2746, Fax:098-863-9547, E-mail:aa317004@pref.okinawa.lg.jp

研修会に参加しませんか？

沖縄県公民館連絡協議会では、公民館に携わる職員を対象に、次の研修へ参加される方に対して、旅費の補助を行っております。

いずれの研修も公民館職員として必要な知識・技術について習得し、地域の指導者の立場にいる公民館職員としての力量を高める研修です。奮ってご応募下さい！

また、沖公研南部大会及び、九公研熊本大会の日程も決定いたしました。是非ご参加頂き、研究と修養の場として下さい。

第42回全国公民館研究集会熊本 大会・第71回九州地区公民館研究 大会のお知らせ

期日：令和2年8月27日(木)分科会
28日(金)全体会

会場：熊本城ホール「熊本県熊本市中
央区桜町3番40号」

対象：公民館関係者等

募集期間：6月頃

大会テーマ：「開かれ、つながる社会教育の実現を目指す」

く地域コミュニティの維持と防災拠点としての役割」

公民館職員専門講座(文科省)

期日：令和2年6月2日(火)～

5日(金)(4日間)

場所：文科省国立教育政策研究所

(社会教育実践センター)

対象：公民館主事、社会教育主事等

募集期間：4月上旬

全国公民館セミナー(全公連)

期日：令和3年1月下旬(3日間)

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

合センター

対象：公民館関係者等

募集期間：10月下旬～12月中旬

編集後記

皆様のおかげをもちまして、『沖公連だより』を発行できました。ご協力に感謝申し上げます。

沖公連や各地域の活動を知って頂くことで、皆様の今後の公民館活動の充実や、地域課題解決の一助となれば幸いです。

紹介したい内容等がございましたら、事務局までお知らせください。

今後とも、沖公連をよろしくお願いします。